

3 ワークショップ・ヒアリングから見る現状・課題

①ワークショップから見る現状・課題

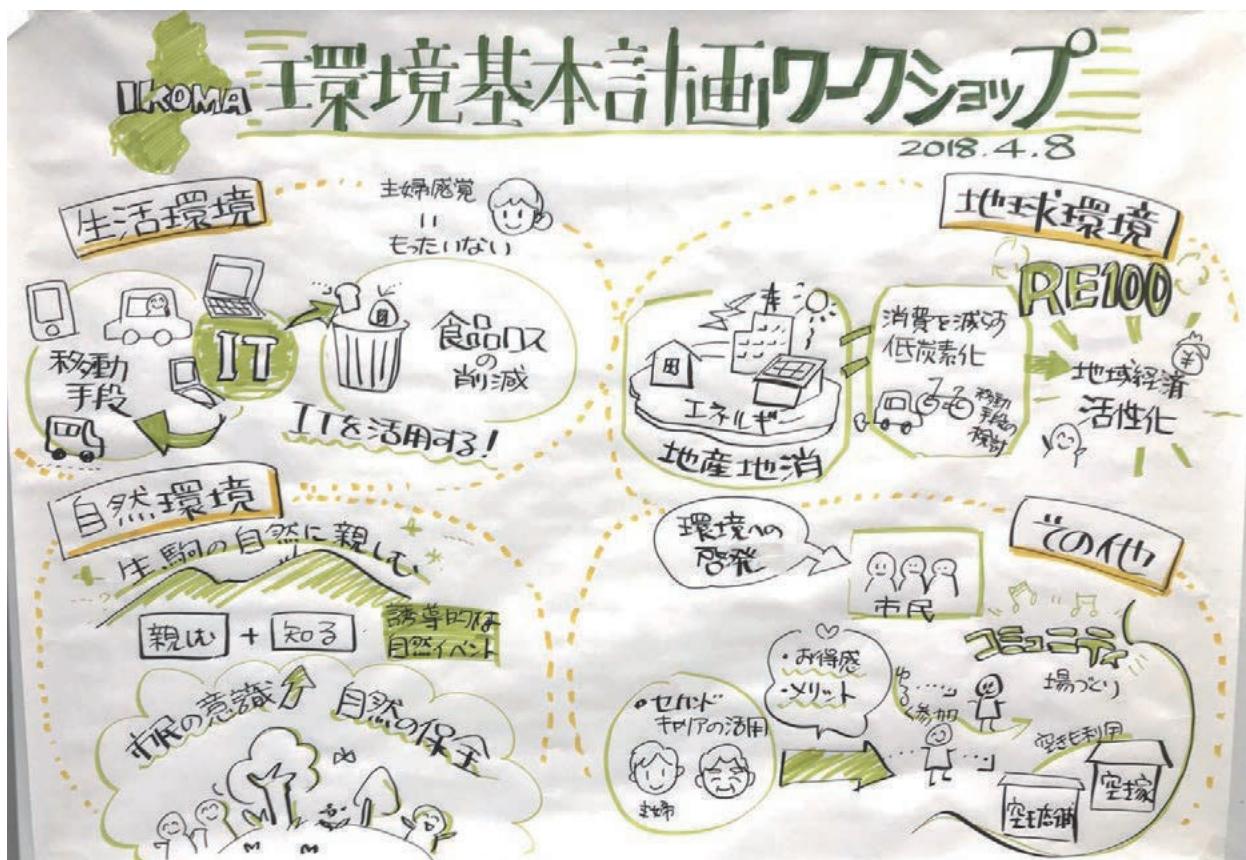
これまで生駒市の環境基本計画の基盤となってきたとも言える「市民、事業者、行政などパートナーシップによる計画づくりと推進」の考え方を継承し、協働による計画策定と実現を促進するために市民ワークショップを開催しました。

ワークショップは、平成30（2018）年1月～5月の土日祝日のいずれか、毎月1回3時間程度計5回開催し、延べ約170人が参加しました。

生駒市の持続可能な地域づくりに向けた、目指すべき環境像、戦略について多様な主体でどのような取組を行えば良いかについてアイディアを出し提案としてまとめました。これらの意見や提案は本計画に示す、望ましい環境像や各目標、重点的な取組等について検討する際の参考としています。

ワークショップの結果、生駒の環境で「良いところ」は、もったいない精神が継承されていること、自然が多い、空気がきれい、活動団体が多く熱心な市民がいる、市民力が高いなどが挙げられ、子どもたちや地域外（全国）の人に生駒の魅力を、口コミやSNSなどを通じて伝えたいなどが挙げられました。

また、生駒の環境で「良くないところ」は、古くなった住宅が多い、坂道が多く車利用が多い、などが挙げられ、今後必要なこととして、楽しい・お得などの環境以外の視点も入れた堅くない伝え方で、市民の心をつかむ工夫をするなどが挙げられました。



第4回市民ワークショップの中間発表のグラフィックレコーディング
市民ワークショップでのグラフィックレコーディングは、吉田友子さんによるものです。(p.65,67,69,71も同じ)

②ヒアリングから見る現状・課題

平成29（2017）年8月に、生駒市環境基本計画推進会議（ECO-net生駒）の各部会を対象に、現在の活動、今後の課題について、ヒアリングを実施しました。

ヒアリングは自然環境分野、せいかつ環境分野、まち・みち環境分野、エネルギー環境分野の4つの部会と共通分野の計5回行いました。

現在の活動について、内容、主な参加者、頻度などを聞くとともに、今後の活動に向けた課題などを聞き取りました。現状及び課題認識についての主な意見は次のとおりです。

各部会では、自然観察会、食品ロス削減の取組、みどりのカーテンの普及や生駒のいいところを発見するまち歩き、再生可能エネルギーの普及啓発等に取り組んできたことが成果として挙げられます。

ECO-net生駒全体としては、運営委員会を中心に企画・検討した環境フェスティバルやECO-net講座等を開催し、多くの市民が参加し活動が広がりつつあります。

一方で、部会で開催するイベントについて、一部パターン化してきている面が見られ、啓発イベントについては、参加者の興味関心とミスマッチがないか確認が必要であると挙げられました。

今後の課題については、事業者や自治会との連携が必要になってくる、活動するメンバーが高齢化・固定化してきているので、学生や子育て世代なども含めた幅広い層を巻き込んでいきたい、などが挙げられました。今後は、市内で活動している人たちがつながり、世代や分野を超えて活動を推進していくことが求められます。